

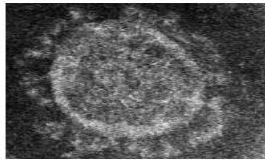
## 新型コロナウイルスについて

2019年12月中国の武漢市で肺炎患者の集団感染が報告され、新型コロナウイルス感染症は世界に拡大し猛威を振るいました。そして、2023年5月8日から2類相当から5類感染症に位置づけられました。

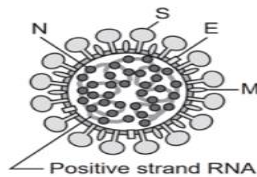
既に御存知の方も多いとは思いますが、新型コロナウイルス感染症抗ウイルス薬についてまとめました。

### ○新型コロナウイルス感染症（COVID-19とは？

新型コロナウイルス感染症はコロナウイルス科ベータコロナウイルス属に分類され約30,000塩基からなる一本鎖・プラス鎖RNAゲノムをもつエンベロープウイルスである。



(国立感染症研究所)

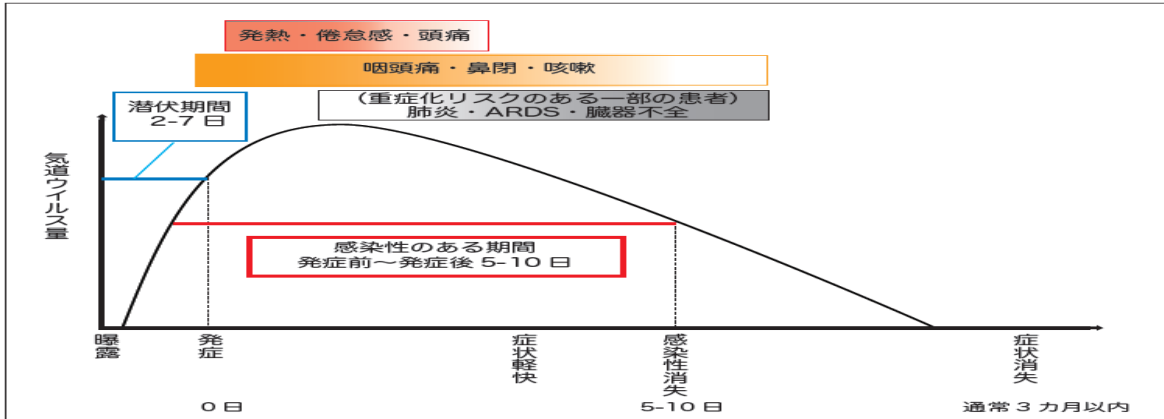


Positive strand RNA

### ○臨床症状

SARS-CoV-2 はまず鼻咽頭などの上気道に感染すると考えられる。無症候性感染の割合ははっきりしていないが、ウイルスの免疫逃避能や感染者の免疫状態にも影響されるものと考えられる。咽頭痛、鼻汁・鼻閉といった上気道症状に加え、倦怠感、発熱、筋肉痛といった全身症状が生じることも多い。

【潜伏期間・感染経路・感染性のある期間】	
潜伏期間	・2～7日（中央値2～3日）
感染経路	・感染者から1～2 m 以内の距離で、病原体を含んだ飛沫・エアロゾルを吸入することが主要な経路 ・換気が悪い屋内では、感染者から遠い場所でも感染 ・ウイルスを含む飛沫や環境表面に触れた手指で粘膜を触ることで感染
感染性のある期間	・発症前から発症後5～10日



臨床経過 図1

# ○新型コロナウイルス治療薬 抗ウイルス薬

\*当院採用薬をまとめています。

抗ウイルス薬	点滴	内服	内服	内服
販売名	ペクルリー点滴静注用	ラゲブリオカプセル	パキロビッドパック	ゾコーバ錠
成分名	レムデシビル	モルヌピラビル	ニルマトレルビル・リトナビル	エンシトレルビル フマル酸
対象者	ハイリスクの軽症～重症	ハイリスクの軽症～中等症Ⅰ	ハイリスクの軽症～中等症Ⅰ	軽症～中等症Ⅰ
発症から	7日以内	5日以内	5日以内	3日以内
妊婦	有益性投与	妊婦等は <b>禁忌</b>	有益性投与	妊婦等は <b>禁忌</b>
用法	通常、成人及び体重40kg以上の小児にはレムデシビルとして、投与初日に200mgを、投与2日目以降は100mgを1日1回点滴静注する。通常、体重3.5kg以上40kg未満の小児にはレムデシビルとして、投与初日に5mg/kgを、投与2日目以降は2.5mg/kgを1日1回点滴静注する。なお、総投与期間は10日までとする。（原則として5日間の投与を推奨）	通常、18歳以上の患者には、モルヌピラビルとして1回800mgを1日2回、5日間経口投与する。	通常、成人及び12歳以上かつ体重40kg以上の小児には、ニルマトレルビルとして1回300mg及びリトナビルとして1回100mgを同時に1日2回、5日間経口投与する。	通常、12歳以上の小児及び成人にはエンシトレルビルとして1日目は375mgを、2日目から5日目は125mgを1日1回経口投与する。
腎機能障害時	重度の腎機能障害の患者推奨しない	用量調節不要	中等度の腎機能障害患者（eGFR [推算糸球体ろ過量] 30mL/min以上60mL/min未満）には、ニルマトレルビルとして1回150mg及びリトナビルとして1回100mgを同時に1日2回、5日間経口投与すること。重度の腎機能障害患者（eGFR 30mL/min未満）への投与は推奨しない。	重度腎機能障害患者（eGFR 30mL/min/1.73 m <sup>2</sup> 未満）時、有益性投与
併用禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	薬物相互作用あり	薬物相互作用あり
同意書	不要	不要	不要	<b>必要</b>
			 左：ニルマトレルビル150mg 右：リトナビル100mg	

## 《参考文献》

新型コロナウイルス感染症診療の手引き 第10.0版  
COVID-19に対する薬物治療の考え方